

中央環境審議会総合政策部会 地方ヒアリング（宮崎会場）概要

1 ヒアリングの日時及び場所

日 時：平成 14 年 3 月 28 日（木） 14：00～16：30

場 所：宮崎観光ホテル 東館 2 階 日向の間

2 出席者（五十音順、敬称略）

（意見発表者）

有 馬 千 泳 宮崎県都城市生活環境部環境保全課課長補佐
谷 平 興 二 延岡アースデイ実行委員会
土 井 裕 子 NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク理事長
南 涼 子 環境カウンセラー、消費生活アドバイザー
富士持 吉 人 河川環境健康問題研究所所長
松 山 圭 一 宮崎松下電器(株)環境管理チームリーダー
宮 野 恵 雲海酒造(株)綾工場長
安 元 喜久子 宮崎県生活学校連絡協議会会長
吉 本 哲 裕 熊本県水俣市総務企画部企画課長

（中央環境審議会総合政策部会）（司会者）

青 木 保 之 (財)首都高速道路協会理事長
天 野 明 弘 関西学院大学総合政策学部教授
上 野 征 夫 三菱商事(株)常務執行役員
鈴 木 継 美 科学技術振興事業団戦略的基礎研究推進事業研究総括
武 田 善 行 経済同友会環境・資源エネルギー委員会副委員長
筑 紫 みずえ (株)グッドバンカー代表取締役社長
三 橋 規 宏 千葉商科大学政策情報学部教授
村 杉 幸 子 (財)日本自然保護協会理事
安 井 至 東京大学生産技術研究所教授
湯 川 れい子 レインボーネットワーク代表、音楽評論家

（事務局 - 環境省）

総合環境政策局総務課 青山課長
総合環境政策局環境計画課 奥主計画官

（傍聴者）

約 40 名

3 意見の概要

（1）谷 平 興 二（延岡アースデイ実行委員会）

市民運動として、「延岡アースデイ」での山の植樹、山の間伐等の取組事例のほか、「山に行こうネットワーク」を立ち上げ、年間を通じて杉柵の間伐、下草刈り等の実践活動を行っていることの紹介。

- ・ 環境問題に対して一市民としてできることには、自分一人でもできること、家庭・家族でもできること、会社でもできること、多くの仲間、市民と集団でもできることの4つであり、これらを地道に根気強く続けることが必要である。
- ・ 多くの仲間、市民と集団でもできることとして、「延岡アースデイ」への参加を市内の団体に呼びかけたところ、多くの団体が参加に応じた。これまでの9年間で、フリーマーケット、エコショップ、ごみ拾いなどのグリーン作戦、山の植樹、山の間伐、桜の木の植樹、マングローブ、ハマボウの植林、不法投棄の片づけなどを実施した。アースデイ運動が地域を越えた大きな連帯運動になりつつあり、子どもたちもボーイスカウト等を中心に積極的に参加している。
- ・ 「延岡アースデイ」は1日間だけの取組だが年間を通じて取り組めるように、「山に行こうネットワーク Chikara Mori 森十字軍」を立ち上げ、町（川下）に住む市民が、上流で山と水を守ってくれている山の人たちのお手伝いをするを根本理念に、杉柵の間伐、下草刈り、植樹、棚田での田植え、稲刈りなどを実施しようと考えている。

(2) 土井 裕子 (NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク理事長)

高性能林業機械によって山が崩れてきている林業、減反により棚田の保水力が減ってきている農業、コンクリートによる三面張りが進む河川の現状の紹介のほか、対策として自然復元型土木産業の創造を提案。

- ・ 林業では、効率化のため高性能林業機械を使った大規模な皆伐が実施されたことや、植林のために作業道が作られたことによって、指でひっかいたように崩れる山が増えてきている。
- ・ 農業では、不便な山奥の棚田から減反が進められ、棚田のあとに杉が植えられることで、棚田の保水力が減ってきている。また、至る所に土地改良区によって整備されている灌漑用水路には、分担金の負担の問題や、台風などで水があふれて民家に被害を与えるとといった問題がある。
- ・ 河川では、富栄養化やコンクリートによる三面張りが上流ほど進んだり、由緒ある川が用水路になっている現状がある。
- ・ これらの問題への対策として、三面張りの川や農業用水を地域の手技を生かして元に戻して、山の自然を復元する事業など、自然復元型土木産業の創造が考えられる。このような環境再生型の土木工事を実施することで、中山間地で生活できる人を増やこともできるし、都会から帰りたい人の雇用の吸収もできるだろう。

(3) 南 涼子 (環境カウンセラー、消費生活アドバイザー)

環境基本計画の推進のために行政担当者と生活者の間の認識の差を埋める必要性、都会での省資源・省エネを推進する必要性、環境への関心を広めていく必要性などを主張。

- ・ 環境基本計画には詳細な記述がされているが、どんなによい計画でも、国民一人一人が実際の生活の中で実行できなければ何の意味もない。これまでも基本計画があったが、それほど環境問題は改善されていない。計画を策定する側と地方

で生活している者との間に認識の差があるからである。環境省から地方ヒアリングの案内がA4サイズの封筒に2枚程度の紙が入れられて送られてくるなど、生活者の視点から見ておかしいことが多い。行政担当者の認識が改善されない限り、環境基本計画は推進されないと思う。

- ・ ローマクラブのレポート「成長の限界」を理解して生きていくためには、自らの生活を変える必要がある。地方在住者が車を自粛することは難しいが、都会での煌々とした明かり、深夜放送やコンビニエンスストアの24時間営業は必要ないと思う。規制などで、省資源・省エネルギーの方向に向ける必要があるのではないだろうか。
- ・ 環境問題にまだ関心を持っていない人たちに、関心を持ってもらえるようにしていくことが必要である。

(4) 富士持 吉 人(河川環境健康問題研究所所長)

104団体のNGO/NPOが参加した「九州環境ボランティア会議」のほか、教師時代の教え子たちが結成した「師弟ネットワーク宮崎(九州・全国環境ボランティア会議準備会)」の活動事例を発表。

- ・ 宮崎県は開発が遅れた地域とされているが、見方を変えると、「開発が遅れたからこそ多くの自然が残った」ということを誇りに思っている。
- ・ 「21 環境の世紀 市民が主人公になって美しい地球とともに生きる社会を目指して」というテーマで、「九州環境ボランティア会議」を開催、NGOなど500団体に呼びかけたところ104団体が参加した。環境省から12名の参加があり、好評だった。生徒会ぐるみ2人の先生が引率した中学校、出張で参加した県立高校の先生達が新しいエネルギーを与えた。九州には、川辺川ダムの問題や諫早湾の問題などがあるが、市民がしっかり頑張っていることを強く感じた。
- ・ 教師時代に、7つの学校で、環境問題が自分たちの問題であること、地球の資源は有限であることを教えてきた。その結果、当時の教え子たちが「師弟ネットワーク」なるものを結成、発会式には環境省も参加した。教え子はそれぞれの環境保全活動の取組のほか、九州・全国環境ボランティア会議の準備を始めた。

(5) 安 元 喜久子(宮崎県生活学校連絡協議会会長)

容器包装リサイクル法の問題点、環境教育や広報活動の重要性などの主張のほか、大型量販店等との対話集会を開催してトレーや牛乳パックの店頭回収の推進を訴えるなどの取組事例を紹介。

- ・ 容器包装リサイクル法については、どこまで住民や事業者への浸透が図られているか、事業者の情報開示を含め点検の必要がある。また、リサイクルルートの確立やリサイクルしやすい製品づくりが急務である。不法投棄の問題には監視体制の強化が重要であり、将来的にはリサイクル料金先払い制も視野に入れる必要がある。
- ・ 省資源・省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化をより一層効率的に進め、確実に環境負荷低減に努める必要がある。
- ・ 幼児、青少年の環境教育の強化や環境保全、省資源・省エネルギーに関する広報活動の充実が、今後の重要課題になる。

- ・ 所属している「生活学校運動」では、環境家計簿の使用、省エネ・リデュースの実施、エコストア店の利用、再生品の使用などのほか、大型量販店等との対話集会を開催して、トレーや牛乳パックの店頭回収、レジ袋の削減、簡易包装などの推進を訴えた。
- ・ 行政と共同して、不燃ごみのサンプリング実態調査を行ったほか、家庭の生活排水の見直しや適正処理を訴え、河川浄化を促進している。

(6) 有馬千泳(宮崎県都城市生活環境部環境保全課課長補佐)

都城市で策定中の環境基本計画の内容や進行管理の仕組みの紹介、進行管理体制に関する国の支援制度の要望のほか、市町村長を対象にした環境セミナーの開催を提言。

- ・ 都城市では、公募市民によって構成される環境市民委員会と職員によって構成されるワーキンググループが中心となって、環境基本計画の策定作業を進めている。畜産業と地下水などの環境保全の両立、農村と住居地域の共生といった地域の特徴的課題を解決し、将来世代に引き継げる環境の保全と創造のために、資源循環型社会の形成を目指した環境基本計画の内容にする方針である。
- ・ 計画策定後の推進をより確実なものにするために、計画策定期間内に進行管理及び環境情報の公開の仕組みを作成する予定となっている
- ・ 環境基本計画及び地球温暖化防止計画の策定に ISO の認証取得を絡め、段階的に庁内に環境配慮を反映させる仕組みづくりを行っていく方針だが、職員や予算の確保が必要である。環境基本計画策定後の進行管理体制についても国の支援制度を検討してほしい。
- ・ 地方自治体の行政運営の中で経済から環境へのシフトが必要である。地方自治体では市町村長の認識の度合いが施策に影響を持つため、市町村長を対象にした環境セミナーの開催を検討してほしい。

(7) 松山圭一(宮崎松下電器(株)環境管理チームリーダー)

宮崎松下電器での、化学物質削減などのグリーン・プロダクツ、ゼロエミッションやリサイクルなどのクリーン・ファクトリー、地域の環境美化活動など地球を愛する市民活動の取組事例を紹介。

- ・ 宮崎松下電器では、環境負荷の少ない製品を開発するグリーン・プロダクツ、環境負荷の少ない工場であるクリーン・ファクトリー、地球を愛する市民活動を環境活動方針としている。
- ・ グリーン・プロダクツとしては、化学物質の削減を中心に進めている。
- ・ クリーン・ファクトリーとしては、埋立廃棄や焼却廃棄を限りなくゼロにするゼロエミッションやリサイクルに取り組んでいる。また、設備の使用電力を削減することなどで省エネ及びCO₂削減に努めているほか、松下電器で定めている化学物質管理ランク指針にのっとり化学物質の削減を進めている。
- ・ 地球を愛する市民活動としては、宮崎県主催の「クリーンアップ宮崎」に参加してボランティアで海岸の清掃をするなど、地域の環境美化活動を進めている。
- ・ 今後の課題としては、経済活動の推進とCO₂削減の両立、リサイクルの推進

などが挙げられるが、リサイクルに関しては地域のリサイクルセンターが必要と考えている。

(8) 宮野 恵 (雲海酒造(株)綾工場長)

雲海酒造で、本格焼酎から発生する焼酎粕を再利用し、飼料化、肥料化を実現した取組やコンポストによる堆肥工場の建設の紹介。

- ・ 雲海酒造では、本格焼酎から発生する焼酎粕を海洋投棄せざるを得ず、大きな課題となっていた。自然起源の有機性廃棄物のリサイクル利用を環境保全型産業の使命と考え、焼酎粕に含まれる蛋白やミネラル分等の有用な栄養資源を再利用した高品質、低コスト混合飼料を開発、生産することで地域活性化の一翼を担うことを目的として約 20 年前から検討を進めてきた。
- ・ 飼料化、肥料化の過程で課題となったのは、コスト面や流通等の問題である。まず、焼酎粕を焼却することで、海洋投棄を全廃することができた。その後、日本酒造組合中央会の補助事業により、牛への供給試験を行っている。販売については、全国酪農業協同組合連合会、農業協同組合を通じて実施しており、順調に進んでいる。
- ・ より一層の環境保全を考慮したゼロエミッション完結型の自社リサイクル体制を確立するため、コンポストによる堆肥工場を建設した。

(9) 吉本 哲裕 (熊本県水俣市総務企画部企画課長)

環境モデル都市を目指す水俣市での、23 種類のごみの分別回収、「ゴミ減量女性連絡会議」による食品トレーの廃止推進、ISO14001 の認証取得などの取組事例を紹介。

- ・ 水俣市では、水俣病の貴重な経験を教訓として、市民が協働で「もやい直し」を合い言葉に、環境モデル都市を目指したさまざまな取組を展開している。
- ・ 23 種類のごみの分別回収を行っている。分別作業は市民によって自主的に運営されており、得られた収益金はすべて地域に還元されている。
- ・ ごみの排出量が増加に転じたため、16 の女性団体からなる「ゴミ減量女性連絡会議」が結成され、スーパーとの直接交渉により 76 品目の食品トレーの廃止を実現したほか、買い物袋持参運動を推進するなどの取組を行っている。
- ・ 平成 11 年に水俣市役所で ISO14001 を認証取得したのを始め、「家庭版 ISO」、「学校版環境 ISO」に取り組んでいる。また、水俣市では独自に、地域環境を保全していこうとする住民同士の協定である「地区環境協定」、環境と健康に配慮した物づくりの担い手を認定する「環境マイスター」制度を設けている。
- ・ 平成 11 年に設立した「みなまた環境テクノセンター」では、地元企業の技術力を生かしながら、環境ビジネスの創出に向けた先導的な取組を進めている。
- ・ 東南アジアの人を対象にした普及啓発セミナーの開催や研修生の受入れを実施している。

4 意見発表者に対する審議会委員からの質疑

(青木委員から谷平さんに対して)

- ・ 間伐などを実施する中で、事故に対する対策をどのように立てているのか。

(三橋委員から谷平さんに対して)

- ・ 「Chikara Mori 森十字軍」の「十字軍」という言葉は、アラブ側から見ると侵略者を意味することをどう考えているか。

(谷平さん)

- ・ 保険は十分に掛けているが、事故を恐れては何もできない。事故が起きたときに考える以外にない。
- ・ 立派な運動である「草刈り十字軍」から引用したものだが、名称変更の必要性は認識している。

(三橋委員から土井さんに対して)

- ・ 三面コンクリート張りの河川などを自然に合うようにつくり直し、それを土木工事の中核に据えるという提案に賛成だが、行政機関に提案はしているのか。

(土井さん)

- ・ 首相のメールマガジンや国土交通省発行の雑誌「河川」などで書いているほか、県の審議会などで発言しているが、日本の建築では工期短縮・省力化が是であるなど全体の仕組みが大きく変わらないと難しい面もある。

(安井委員から安元さんに対して)

- ・ 容器包装リサイクル法が一番の問題点は何か。
- ・ 再生品が新品より値段が高い状況について、どう考えるか。

(湯川委員から安元さんに対して)

- ・ どの程度の取組をしている店をエコストアと考えているのか。

(安元さん)

- ・ 企業はできるだけ、再生しやすい製品を作ったり、リターナブルびんを利用してほしい。
- ・ 店頭調査をすると、再生品と表示すると売れないと言われる。循環型社会を形成していくためには、再生品使用が不可欠である。
- ・ レジ袋の削減、不要なトレーの不使用、簡易包装の推進などの取組をしている店をエコストアと認定している。

(湯川委員から富士持さんに対して)

- ・ 子どもの環境教育が大切だと考えるが、「師弟ネットワーク」では地域への取組や次世代への環境教育にどのように関わっているのか。

(富士持さん)

- ・ 教師時代の取組を子どもたちは見ている、「師弟ネットワーク」につながった。学校とのつながりは結成の時だけであり、その後は、県外のネットワーク、各自の師弟ネットワークなどで次世代の社会に広く浸透している。

(鈴木委員から有馬さんに対して)

- ・ 地域の実状を考慮して国は計画を策定すべきとの意見に刺激を受けた。

(湯川委員から有馬さんに対して)

- ・ 畜産業による環境への問題点は何か。

(有馬さん)

- ・ 都城市では、地域の処理能力を超えた畜産廃棄物が出てくるため、堆肥にもせずに生のまま農地に捨てている。これらが地下に浸透すると、地下水が硝酸性窒素や大腸菌によって汚染されることになる。

(上野委員から松山さんに対して)

- ・ 企業での環境保全の取組は時間が経つとしばんでいくことが多いが、成果を上げた組織や社員を評価するなど、取組を継続させていく仕組みを工夫しているか。

(村杉委員から松山さんに対して)

- ・ 地球を愛する市民活動の取組では、勤務時間中の活動も奨励しているのか、また、参加したことへの評価はどのようになっているのか。

(武田委員から松山さんに対して)

- ・ ゼロエミッションを達成する過程で、最後まで処理できなかった部分は何か。
- ・ 製品のリサイクル率はどのようになっているか。

(湯川委員から松山さんに対して)

- ・ 乾電池のリサイクルにどのように取り組んでいるのか。

(松山さん)

- ・ 世の中の環境意識が高まっていること、ISO14001の審査で継続的改善が必要なことから、社内の意識はそれほど下がっていない。ゼロエミッション達成に尽力した社員には表彰するなどしている。また、企業命令で分別を進めると長続きしないので、自分で考えられるように教育を行っている。
- ・ 市民活動は土日であり、仕事での参加はない。今後は、参加するだけでなく、企業として主催することも考えていきたい。
- ・ ゼロエミッションで一番苦労した部分は、金属と紙の複合材や廃プラスチックである。
- ・ コンデンサーのような部品の場合、リサイクル材料を使用することは難しいため、製品リサイクルは実施していない。
- ・ 乾電池については、リサイクル業者に渡して金属回収してもらっている。

(上野委員から吉本さんに対して)

- ・ 「環境マイスター」を次世代につなげていくための工夫をしているか。

(村杉委員から吉本さんに対して)

- ・ 環境モデル都市づくりを進める上での行政としての問題点を教えてほしい。

(筑紫委員から吉本さんに対して)

- ・ ごみの分別回収の日にちは決まっているのか。市民によって自主的に運営されているということだが、働く女性に負担をかけていないか。
- ・ 環境ビジネスの創出に向けた自主的な取組について、地元の金融機関が支援しているのか。

(吉本さん)

- ・ 水産物ということだけで売れない時代があったが、行政と市民が環境保全に取り組むことで、次第に売れるようになってきた。生産者には環境に配慮したモノづくりが必要との認識が生まれ、多くの人々がマイスターの審査基準をクリアしようと努力している。行政はそのような努力を促す下支えを行っていききたい。
- ・ 行政として、環境で飯を食っていけるということに気付く場面をつくっていくこと、人間性への回帰を重視すること、お年寄りと子どもを主役にすることを考えていきたい。
- ・ 分別回収の日は月1回で、地域の人たちと話し合っていて決めている。時間帯は夕方4時半から6時くらいまでが多い。働いている女性に対しては、地域の人を手伝っているようである。
- ・ 金融機関の支援は今のところないが、電機メーカーなどが取り組んでいる。

5 現地視察概要

日時 3月28日(木) 午前

視察先 綾手づくりほんものセンター
綾町より、環境保全の取組の概要について説明を受けた。

照葉樹林(綾町)

昭和42年に国有林の伐採と土地交換の計画を町民90%の反対署名を集め、伐採を中止させて残った東洋一と言われる照葉樹林。

雲海酒造綾工場

焼酎かすを100%再利用し、乳用牛用、肉用牛用など用途・段階に応じた飼料造りができる飼料工場を併設する酒造工場。